

「考④ ～修学旅行記・嵐山・北野天満宮～」

校長 江口 満



修学旅行二日目・嵐山渡月橋での学級写真

【前号からの続き】6月5日(月)修学旅行二日目、京友禅染体験を終えた私たちは京都を代表する観光地の一つ、嵐山に向かった。その嵐山のオススメスポットが「渡月橋」と「竹林の小径」である。昼食場のレストランは桂川に面しており、昼食後、渡月橋をバックに学級写真を撮影する予定であるため、生徒の皆さんにあと一つ、竹林の小径をクリアさなければならぬ。私も何度か竹林の小径を訪れたことがある。竹林の中に一步踏み込んでみると雰囲気が一変する。神秘的というか、まるで別世界に迷

い込んだ感覚に陥る。まず生徒の皆さんにそれを体験させたいのである。

また竹林の小径からさらに進むと常寂光寺や祇王寺、あだし野念仏寺などのお寺へ通じる。常寂光寺は、平安時代に藤原家が「小倉百人一首」を撰じた小倉山荘があったと伝わる地。祇王寺は新緑が美しく、苔寺で有名である。今回の修学旅行では時間の関係でここまで散策できないが、生徒の皆さんが近い将来この地に訪れた際、「中学時代、竹林の小径まで来たことがある。」と思わせたいのだ。

しかし渡月橋から竹林までは、約1キロ離れている。それまでの道のりには観光客でござ



り返している。暑くて歩きたくないし、誘惑もある。途中、お土産屋さんや食べ物屋さんがひしめいているからだ。渡月橋で解散したら、きっと生徒の皆さんは一目散にソフトクリーム屋さんへ駆け出すはずだ。だからこそ私は、ここ竹林の小径にカメラを持って陣取ることにしたのである。「まず竹林の小径を見学してから買い物をしてくれ…」と



私は、昼食もそこそこにレストランを後にした。予想通り、竹林の小径に通じる大通りの歩道には観光客が溢れており、中々前には進めない。日差しも強い。冷たそうなソフトクリームが、「美味しいよ。」と語りかけてくる。予定の時間の二倍かかって、やっと大通りから竹林に通じる道に左折した。ここにも人、人、人。小径に通じる細い道には、行き交う観光客がいっぱいである。この人波をぬって、本当に生徒は来ることができるのか。さらに左折してやっと目的地の竹林の小径に到着。ここでも人波が途切れない。別世界を感じるには人が多すぎるが、いくらかの涼を得、汗が引いていくのを感じる。生徒が来るはずの方角に目をやるが本校の生徒の姿は見えない。時間ばかりが空しく過ぎ去る。「一番に校長先生の所まで行ってから、その後、買い物をします。」と頼もしいことを言ってくれていた班も、途中で挫折したのか。その時、携帯電話が震えた。平山先生からの着信である。【次号に続く】



【上】嵐山の渡月橋から「竹林の小径」にたどり着いた三年生の皆さん。よくぞたどり着いてくれた！

「成功だったということを証明したい」 3年1組 Iさん

今回の修学旅行のスローガンである「考」を、自分の中では達成できたと思う。こまめにしおりを確認したり、必要以上に時計を見たりして、班のみんなで協力し合っていたからだ。印象に残っているエピソードは数え切れないほどある。それほ



ど楽しかったことが分かる。その中でも一番の思い出は、からすま京都ホテルでの夜の食事の時に、一組の料理を運んでくださったスタッフさんだ。言動が毎回びっくりするほど紳士で、今でも忘れることができない。(中略)

一日目から振り返っていく。新大阪に向かう新幹線の中でM先生にもらったフルーツ饅頭がとても美味しかった。奈良公園で鹿に鹿せんべいをあげたのだが、あまりにも怖くて班の中で私が一番びびっていたらう。その場で買ったせんとくんキーホルダーは、帰ってきた今でも大事にしている。せんとくんの像があれば、せんとくんキーホルダーを出して共鳴させた。二日目は友禅染体験をしたが、前の子が葉のところを花と同じ色で塗っていて、死ぬほど爆笑した。「ある意味世界に一つだけの花だね。」という言葉かけた。嵐山では、校長先生に出会わなかったため、竹林に二回も行くことになりとても地獄だった。だがその時に食べたバナナ味のソフトクリームは、イライラしていたのもあって意味が分からないほど美味しく感じられた。(中略)

関西の方々は皆優しくて、「毎度おおきに！」と笑顔で言うてくださった。新幹線に乗るのも初めてだったし、こんなにも遠出をすることすら初めてだったから不安も大きかったけど、行ってみれば実際そんなに怖くもなくてとても楽しかった。でも私はやっぱり福岡が好き。今回の修学旅行で、改めてその事に気付くことができたのだ。コンビニの屋根が瓦で出来ていたり、関西弁が面白くて優しかったり、それは福岡にはないものだけど、そんな福岡だからこそ私は好きだったりする。



先生達が昨年の九月から計画をしてくださった今回の修学旅行は、きっと最高のものになったのだろう。当日も迷惑をかけることはあつたし、考えていかなければいけない改善点もたくさんあつた。K先生が言っていたように、この修学旅行が成功だったかどうかは、これから分かっていくはず。良かった点を活かし改善点を見直して、成功だったということを証明したいと、私はそう考える。

「自立に向かって頑張っていく」 3年4組 Sさん



二泊三日というとても長いようで短い修学旅行があつたという間に終わった。初めはとても不安な気持ちでいっぱいだった。近場だと何も気にせず楽しめるけど、今回は奈良、京都ととても遠く、また観光に来ている外国の人も多かったからだ。そして他校の人達も来ていてとても絞めつけられた感じがした。(中略)



二日目は友禅染体験。心の中では「絶対にしょーもない。楽しくなさそう。」と思っていた。話を聞き、色を見つけて体験してみると、普段しないことなのにとっても楽しくずっと笑ったままだった。時があつたという間に過ぎてしまつて、「後一時間ほしいな。」と思えるほど楽しかった。嵐山では、たくさんの観光客でいっぱいだった。前に進むのも苦労するくらいだった。360度どこを見てもお店だらけ。おいしい食べ物から京都の名物までたくさんあつた。色々な所にみんな大好き「恋のおみくじ」があつて、自分も引きまくつたけど、「小吉、吉」と残念な結果ばかり。恋愛はもうしないと決めた。どれもおいしそうでどれを食べようかと悩みながら、いろんな食べ歩きをしたため満腹になった。嵐山にはとても長い大きな橋があつた。橋から見える川の流れがとてもきれいだった。



北野天満宮では、なでるとそのなでたところがよくなるという牛があつて、「自分は頭も良くなりたし、かわいくなりたし。」と気づいたら全身をなでまくっていた。金閣寺では、目が光るほどきらきらでとてもおどろいた。おもちゃみたいでこの世でこんなに光っているのは、金閣寺だけじゃないかなと思うほどきれいだった。どこから見てもきれいで女優さんのように光っていた。二日目のホテルはとても高級で気持ちがあがつた。食事が全て高級で少し緊張した。普段食べないものばかりだったので、口に合わないものもあつたけど美味しかった。(中略)



私はこの修学旅行で、人が多い中行動する難しさと、時間厳守、考えて行動、

ということを学ぶことができた。自分たちで考えて行動することは、こんなにも難しいことなんだと知つた。今後この経験を生かして、自立に向かって頑張っていけたらいいと思う。



【上】学問の神様を祀る北野天満宮でお参りをして牛の像をなでる生徒の皆さん【右】おみくじを引いて一喜一憂する生徒の皆さん

